

令和6年(2024年)8月

総務委員協議会資料

危機管理部 危機管理対策推進課
総合政策部 行革推進課

案 件

・枚方消防署の建替候補地の検討について

1. 政策等の背景・目的及び効果

枚方消防署は建築から50年以上が経過する中で庁舎の老朽化が顕著となっており、加えて、外壁の一部が損傷するなど様々な不具合も発生しています。また、狭隘な敷地面積や前面道路との高低差など、現況や立地についても課題となっています。

これまでから枚方寝屋川消防組合と本市では、枚方消防署新庁舎の整備に向けて、新庁舎に必要な機能・設備の精査、建替候補地に求める条件や候補地案の調査、研究など様々な取り組みを進めてきました。このような状況の中、枚方寝屋川消防組合では、現枚方消防署が抱える課題を踏まえた「枚方消防署新庁舎整備基本構想」の作成に着手する（令和6年3月策定）とともに、令和6年1月には本市に対して建替に係る候補地選定の依頼が行われたところです。

同依頼を受け、本市では建替候補地の選定に向けた検討を進めていますが、今般、その検討状況についてご報告するものです。

2. 検討の状況

(1) 枚方消防署の現状と課題

① 庁舎に関する現状と課題

- ・ 現庁舎は昭和 46 年 1 月に建設されており老朽化の進行が顕著に現れている。
- ・ 経年劣化等により外壁の一部が損傷するなど様々な不具合が発生している。

② 車庫に関する現状と課題

- ・ はしご車や化学車等の消防車両が配置できない。
- ・ 前面道路との高低差により迅速な出動に支障をきたしている。

③ 土地に関する現状と課題

- ・ 敷地が狭いことから、消防防災活動能力の維持向上を図るための十分な訓練スペースの確保や訓練施設の設置ができない。

(2) 候補地選定のプロセス

候補地の選定については、枚方消防署の現状と課題を踏まえ、下記のプロセスにより実施することとします。

- ①一定規模の敷地面積を有する市有地について、枚方消防署新庁舎整備基本構想等に基づき設定した候補地選定の評価基準(下記参照)により、比較検討を実施。
- ②比較検討結果をもとに、枚方寝屋川消防組合等と協議のうえ、候補地案を選定。
- ③候補地案の近隣住民のご意見や他用途での活用可能性、関係法令等による建設への影響等も踏まえて、総合的に候補地を選定。

《 候補地選定の評価基準 》

- ・ 庁舎や車庫、訓練塔、訓練スペースなど新庁舎に必要な機能・設備を実現するための敷地面積（3,500 m²程度）の確保が可能であること。
- ・ 「5分救急」「5分消防」体制を引き続き維持できる立地であること。
- ・ 大規模災害時に際しても適切な消防救急活動が持続できる立地であること。
(緊急交通路へのアクセスが容易、洪水浸水想定区域外など災害リスクが低い)

(3) 候補地案について

	① 現枚方消防署用地	② 旧淀川衛生工場跡地	③ 旧中宮北小学校跡地
住 所	大垣内町 2 丁目 10-22	出口 2 丁目 30-1	中宮北町 4-1
用途地域	近隣商業地域	準工業地域	第一種中高層住居専用地域
敷地面積	— (2,099.5 m ²)	○ (約 5,700 m ²)	○ (16,925 m ²)
5分救急・消防体制	○ (維持可)	○ (維持可)	○ (維持可)
緊急交通路	○ (近接)	○ (近接)	○ (近接)
災害リスク	— (洪水浸水想定区域内)	— (洪水浸水想定区域内)	○ (該当なし)



上記 3 箇所について、評価基準による比較検討のうえ、庁内関係部署及び枚方寝屋川消防組合とも協議した結果、旧中宮北小学校跡地を候補地案として選定し、優先して検討します。

(4) 今後の進め方等

候補地案として選定した旧中宮北小学校跡地について、今後、近隣住民のご意見をお伺いしながら更なる検討を進めます。

なお、当該跡地については、新庁舎に必要な敷地面積に相当する部分のみの活用を想定しています。その他部分の今後の活用については、公共施設マネジメント推進計画による施設総量の最適化等の観点を踏まえ、引き続き検討していきます。

3. 実施時期等

令和6年8月 総務委員協議会にて候補地の検討状況を報告
9月～ 候補地案について地域のご意見の聞き取り

4. 総合計画における根拠・位置付け

総合計画 基本目標 安全で、利便性の高いまち
施策目標1 災害に対する備えができているまち
施策目標2 災害時に、迅速・的確に対応できるまち



5. 関係法令・条例等

災害対策基本法、枚方市地域防災計画

6. その他（参考資料）

【概要版】枚方消防署 新庁舎整備基本構想	P 7 ~ 8
概略位置図	P 9 ~ 10
5分救急・消防体制	P11 ~ 13
緊急交通路	P14
災害リスク	P15 ~ 16

【概要版】枚方消防署 新庁舎整備基本構想

1. 枚方消防署の現状と課題

《新庁舎整備検討の背景》

本消防組合の第4次将来構想計画において移転・建替えを含めた検討を行ってきたところであり、令和5年度から始動した第5次将来構想計画においても引き続き、最重要課題として位置づけています。

《庁舎に関する現状と課題》

- (1) 建築後50年以上が経過しており庁舎の老朽化が顕著
- (2) 防災拠点としての耐震性の不足
- (3) 大阪北部地震の影響で、大規模外壁修繕が必要



枚方消防署入口 階段となっており、スロープも設置されていない。

《車庫に関する現状と課題》

- (1) 大型車両の配置制限
- (2) 前面道路との高低差による迅速な出動への支障
- (3) 車庫内のスペース不足



前面道路と高低差があり、出動時、収納時に注意が必要です。

《土地に関する現状と課題》

- (1) スペースが狭隘で、様々な災害を想定した訓練ができない
- (2) 来庁者用駐車スペースが訓練スペースと共有
- (3) はしご車等の大型車両の進入が困難



訓練施設がないため、庁舎での訓練や、単管を組んだ簡易の訓練施設で対応しています。

《訓練施設に関する現状と課題》

- (1) 訓練施設が未整備
- (2) 来庁者用駐車スペースが訓練スペースと共有

2. 新庁舎整備に関する基本方針

《基本方針》

- (1) 市民の安全・安心な暮らしを支える拠点となる庁舎
- (2) 大規模災害等での代替拠点となる庁舎
- (3) 市民の防災研修の拠点となる庁舎
- (4) 経済性、機能性、環境面に配慮した庁舎

《新庁舎に必要な機能》

庁舎機能

- ・免震、耐震機能 (Is値 0.9以上)
- ・セキュリティ機能
- ・機能的レイアウト
- ・ユニバーサルデザイン
- ・水害対応

訓練施設

- ・主訓練塔 (排煙設備要)
- ・補助訓練塔
- ・訓練スペース (はしご車接塔訓練等)

車庫機能

- ・車両 (大型含む) 分のスペース
- ・車庫前面に資器材点検スペース
- ・出動準備室の整備

その他

- ・市民体験コーナー
- ・大規模資機材倉庫

【概要版】枚方消防署 新庁舎整備基本構想

3. 新庁舎に必要な主な機能詳細

【庁舎機能・設備】

≪水害対応≫

台風やゲリラ豪雨などの風水害や河川の氾濫など、未曾有の災害が発生した場合でも、消防庁舎としての機能を維持できる庁舎を整備します。

【訓練施設】

≪主訓練塔≫

中高層建物などの消火、救助及び救急活動を実践的に訓練できる施設として耐火造の訓練塔を整備します。また、訓練塔内部には、様々な消防活動に必要な訓練施設（火災を体感するホットトレーニングなど）を併設するものとします。

具体的には、訓練塔内で薪等を燃焼させ、実践的な熱気・煙気、燃焼実験等を可能とするため、耐火、排煙設備等を兼ね備えている訓練塔、また、低層階及び高層階からの救出訓練やはしご車を接塔することができる訓練塔を確保します。

≪補助訓練塔≫

主訓練塔との間で水平渡過訓練が実施可能で、その他、低所からの救出訓練、降下訓練、三連梯子の架梯訓練等を実施できる施設として、耐火造の補助訓練塔を整備します。

≪訓練塔周囲≫

訓練塔の周囲には十分なスペースを確保し、はしご車の接塔訓練が容易に実施できるものとし、訓練時に出動指令がかかった際に、大型車両でも迅速に出動できる動線を確保します。職員の災害対応能力を向上させるために、実践的な消火、救助及び救急活動の訓練（集団災害訓練、頻発する土砂災害に対応するための訓練）や消防団員と連携して実施する訓練スペースを確保します。

【その他】

≪市民体験コーナー≫

市民体験コーナー（消火器の取扱い・台風体験、地震体験、煙体験など）を設け、地域住民をはじめ市民の方々が、火災や災害の恐ろしさを肌身を持って体験できるなど、防災・減災教育の質の向上や防災意識の向上を図ります。

≪大規模災害資機材倉庫≫

大規模災害時に必要な各種資機材を1箇所に集約することで、防災拠点となる大規模な資機材倉庫を整備します。

4. 新庁舎整備に必要な庁舎規模及び面積

≪庁舎規模≫

枚方消防署管内の消防活動拠点として機能させるため、地震や浸水などの災害に強い構造であるとともに、十分な広さと利便性を有する施設とし、枚方消防署庁舎、消防車両車庫、訓練施設、資機材等の収納施設、燃料などの備蓄施設を整備します。

庁舎施設は、交替制職員（1当務約20人）事務室、毎日勤務職員（署長以下約35人）事務室、来庁者受付スペース、各種会議室、書庫、トイレ、浴室、食堂、仮眠室、トレーニング室、多目的ホールが必要です。

車庫施設は、消防車両を全車収納できる十分な面積を確保するとともに、迅速な出動態勢を確保する出動準備室、資機材を収納する倉庫や濡れた防火衣を乾燥させる乾燥室などが必要です。

訓練施設は、消防活動能力を維持向上させるための消火、救助及び救急活動を実践的に実施でき、内部にも訓練設備を有する低層及び高層の訓練塔を整備するとともに、はしご車が接塔できる訓練スペースを必要とします。

以上のことを踏まえ、敷地3,500㎡以上、庁舎延べ床面積2,700㎡以上とします。

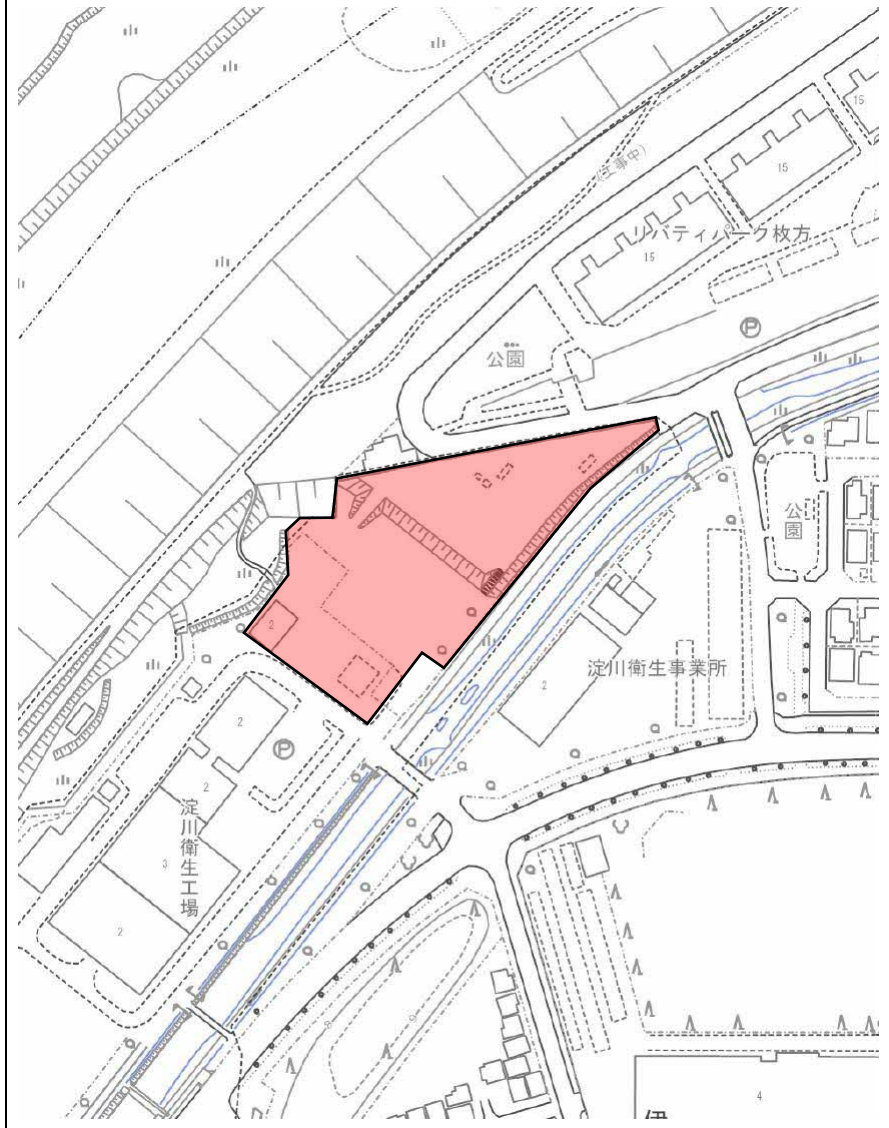
	施設名	建築面積	延べ面積
施設	庁舎（4階建て）	700㎡	2700㎡
	現場車両車庫（平屋建て）	300㎡	300㎡
	その他車両車庫	60㎡	60㎡
	主訓練塔	37㎡	270㎡
	補助訓練塔	27㎡	130㎡
施設合計		1124㎡	3460㎡
敷地	訓練スペース等	2271㎡	2
	来庁者用駐車場	105㎡	
敷地合計		2376㎡	2
必要敷地面積		3500㎡	

概略位置図

① 現枚方消防署用地

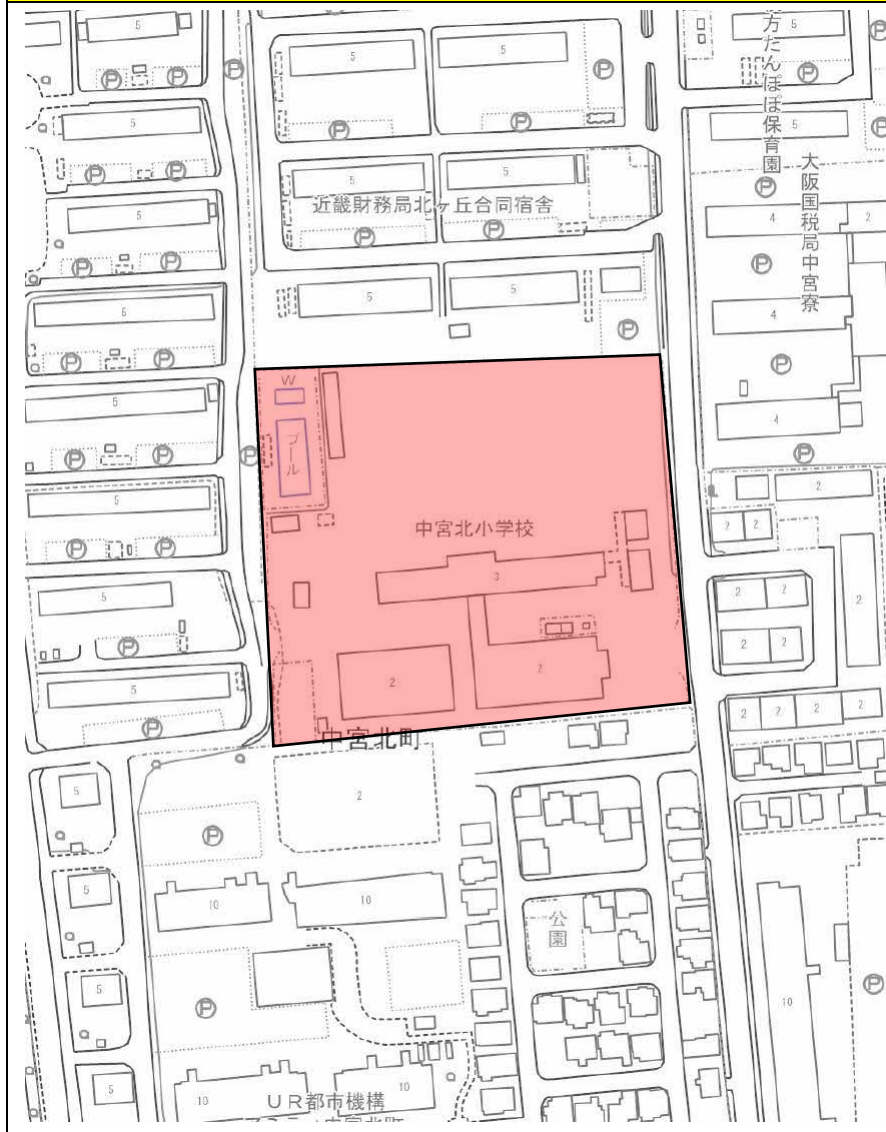


② 旧淀川衛生工場跡地



概略位置図

③ 旧中宮北小学校跡地

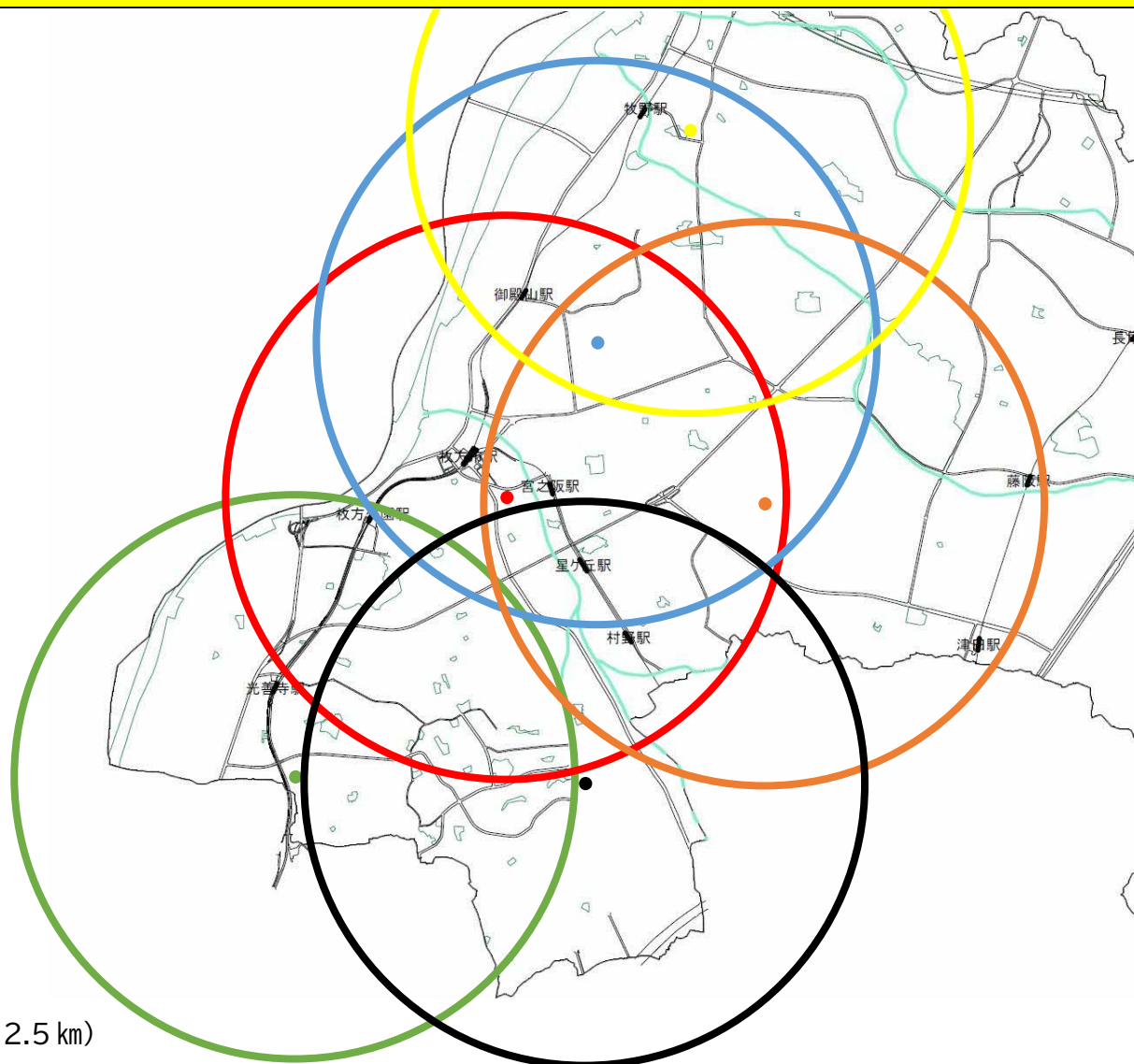


5分救急・消防体制

※一部抜粋

① 現枚方消防署用地

- 枚方消防署(現在地)
- 中宮出張所
- 中振出張所
- 渚出張所
- 川越出張所
- 阪出張所



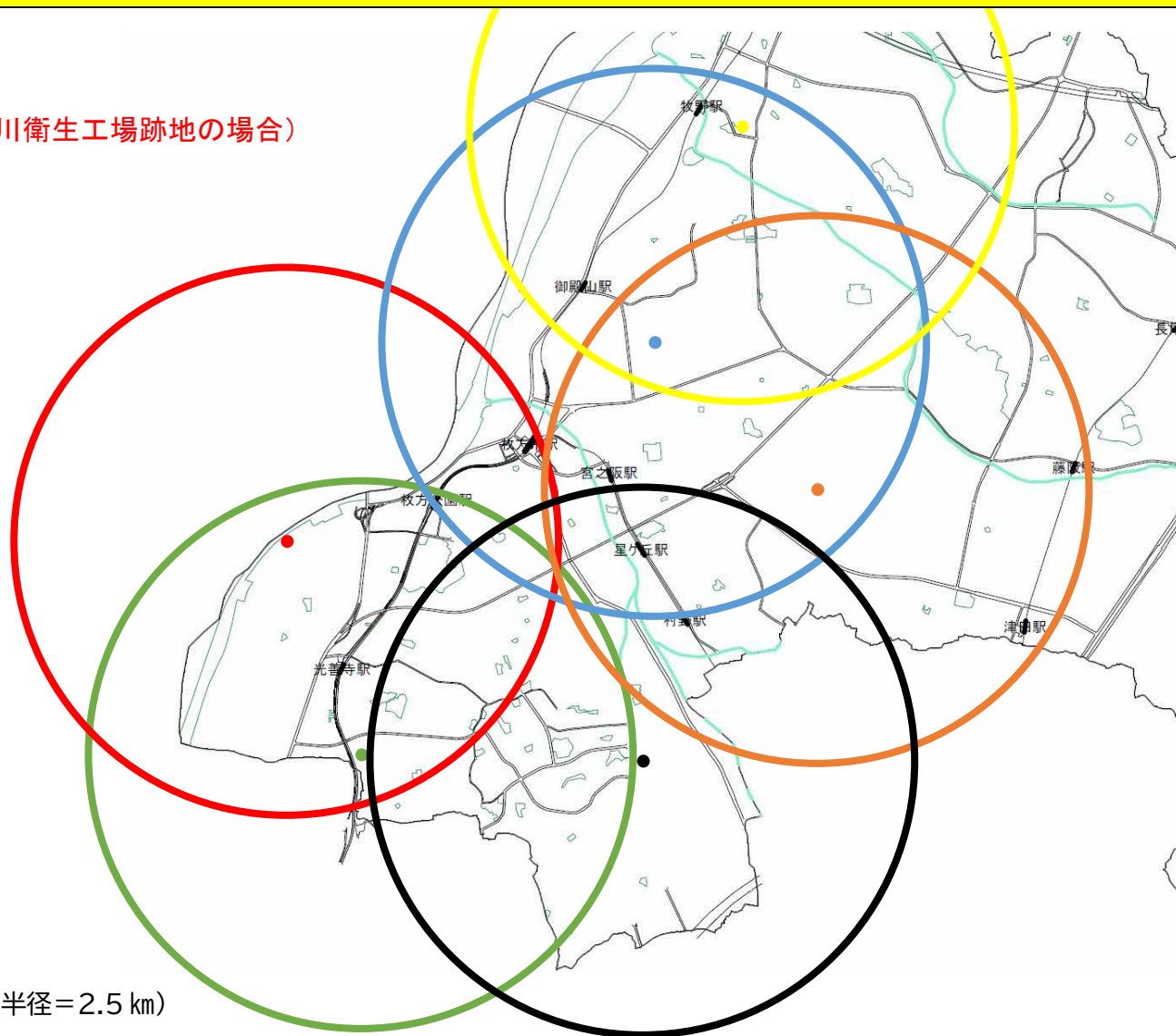
5分以内の到達圏 時速:30 km (半径=2.5 km)

5分救急・消防体制

※一部抜粋

② 旧淀川衛生工場跡地

- 枚方消防署(旧淀川衛生工場跡地の場合)
- 中宮出張所
- 中振出張所
- 渚出張所
- 川越出張所
- 阪出張所



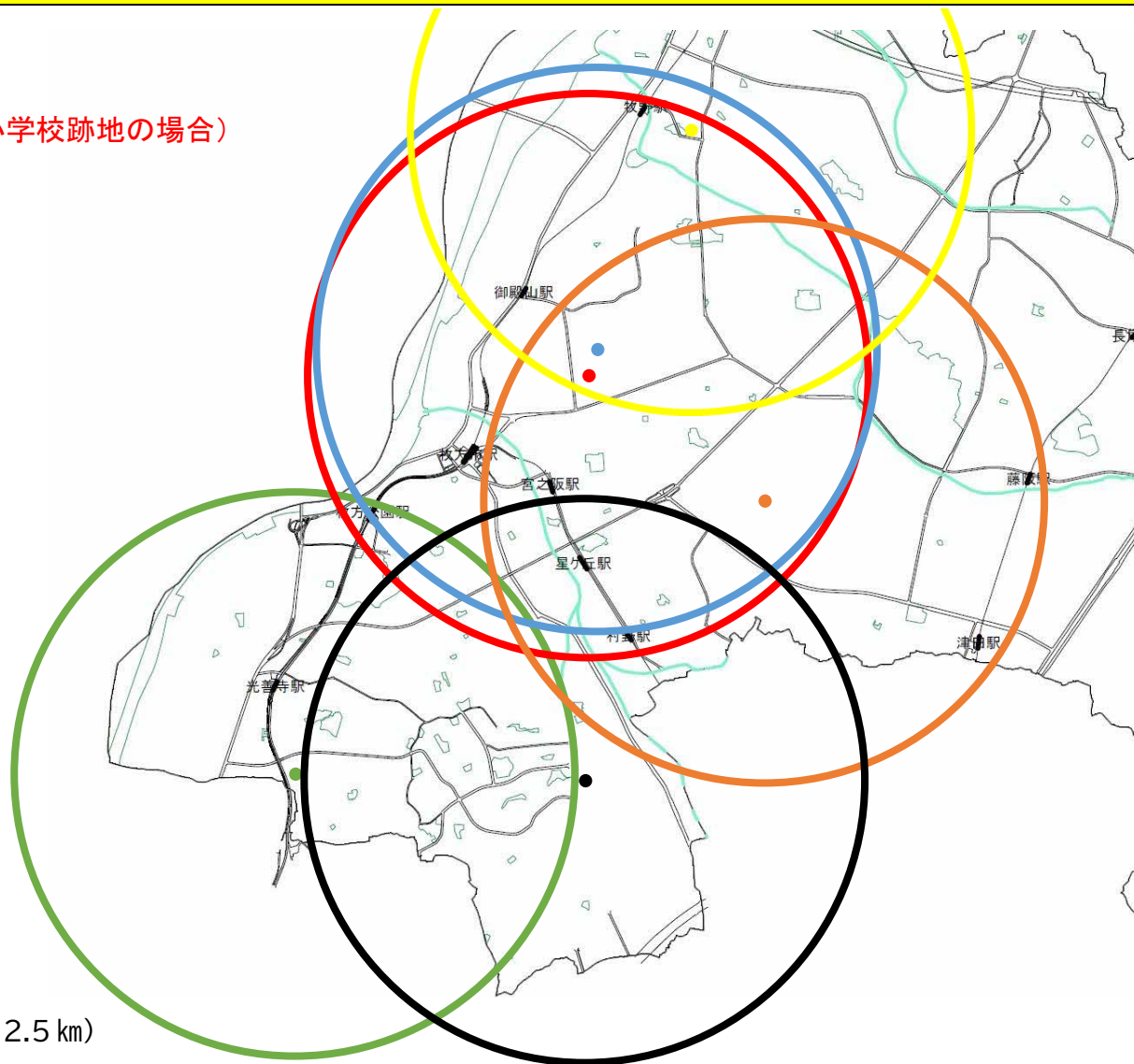
5分以内の到達圏 時速:30 km (半径=2.5 km)

5分救急・消防体制

※一部抜粋

③ 旧中宮北小学校跡地

- 枚方消防署(旧中宮北小学校跡地の場合)
- 中宮出張所
- 中振出張所
- 渚出張所
- 川越出張所
- 阪出張所

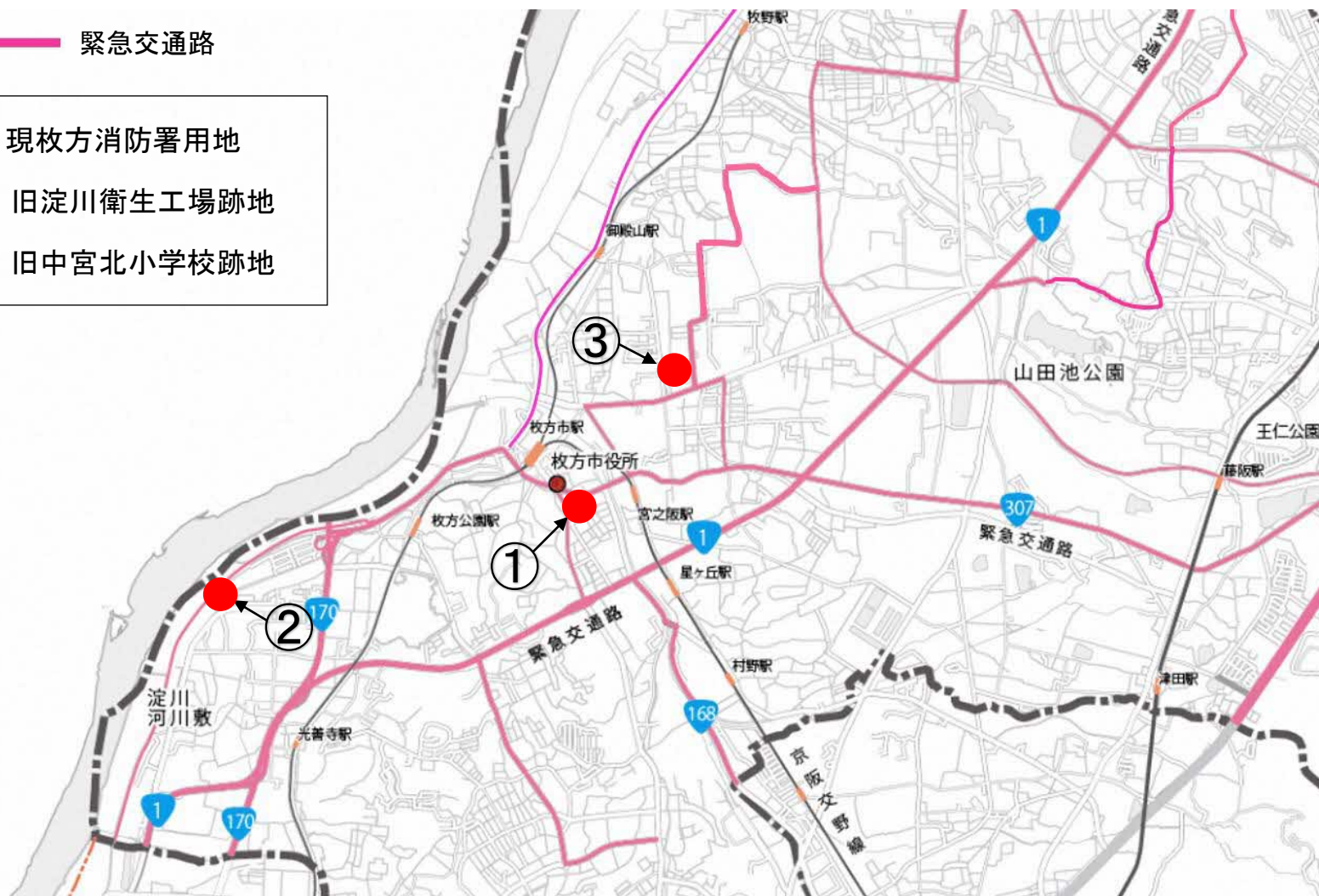


5分以内の到達圏 時速:30 km (半径=2.5 km)

緊急交通路

緊急交通路

- ① 現枚方消防署用地
- ② 旧淀川衛生工場跡地
- ③ 旧中宮北小学校跡地



災害リスク

① 現枚方消防署用地

浸水想定区域内
(3~5m)

② 旧淀川衛生工場跡地

浸水想定区域内
(3~5m)

想定最大規模の降雨に基づく洪水浸水想定区域より抜粋

災害リスク

③ 旧中宮北小学校跡地

